

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(1F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和2年8月6日	評価結果市町村受理日	令和2年10月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2190103743-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年8月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居後も『その人らしい暮らし』が継続できるように、ご本人を中心にご家族と職員間で協力しながら支援しています。できる事は行って頂き、出来なくなった事はご本人の尊厳を傷つけないよう配慮し、さりげない支援を行います。またご利用者様が安心してのんびり暮らせるように、空間づくりやできる限り個別ケアを心がけています。健康面では訪問診療、訪問介護、訪問歯科と連携を取りながらご本人、ご家族が安心できる体制を整え、ご本人様の希望があれば看取りまで実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近くにドラッグストアや大型スーパーが立ち並ぶ便利な住宅街にある。自治会に加入し、地域の「みまもり隊」の活動に参加する等、相互理解と連携に努めている。管理者と職員は、「自分らしく生きる」「自由に笑って過ごしましょう」をユニットごとの目標とし、日々、利用者の立場に立ったサポートに努めている。食事は手作りで、利用者の残存能力を活かす機会にもなっている。訪問診療、訪問看護との連携で24時間の医療支援体制があり、適切に健康管理が行なわれている。管理者と職員は、風通しの良い関係ができており、職員の定着率も高い。本人・家族の希望により、看取り介護が実践されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(1F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットで作った「自分らしく生きる」を理念とし、ご利用者様が自分らしくあるよう日頃から意識し実践しています。	法人理念「人・社会・自然にやさしく」を基に、職員は「自分らしく生きる」と「自由に笑って過ごしましょう」をユニットごとの目標にし、ケアに取り組んでいる。理念は職員の目に付く場所に掲示し、日々の取り組みをカンファレンス等で振り返りながら、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、530運動やみまもり隊に参加している。昨年も文化祭にご利用者様の作品を出展し、地域の方に見て頂いた。地域とのつながりを大切にしたいが、新型コロナウイルス感染予防のため2月より職員のみで近所で買い物をしている。	自治会に加入し、清掃活動や地域の行事に参加している。また、地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、学童下校時の「みまもり隊」の活動に参加するなど、相互理解と交流に努めている。新型コロナウイルス感染予防対策の為、現在中断している活動も多いが、再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や外掃除、水やりなど日常を通して認知症の方の姿を理解して頂くよう心がけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染予防のため開催していないが、予め報告書を渡し意見を頂いている。	隔月に行政・民生委員・家族等が参加し開催し、利用者の状況、活動状況、ヒヤリハット、避難訓練等について報告及び意見を交換している。現在は、新型コロナ感染予防の為、会議開催を中断しているが、VR(仮想現実)の技術を活用した認知症の中核症状を体験する企画などについて、話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険についての相談を行った。地域包括支援センター主催の認知症ケアについての意見交換会に出席させて頂いた。	行政の担当者とは、介護保険や困難事例、空き情報等について助言を受けるなど、協力関係を築いている。また、行政主催の研修会や連絡会議に出席し、利用者サービスにつなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について法人の代表が事業所に出向き研修を行っている。3か月に1度、「身体拘束「0」にしよう検討会議」を開き個々の拘束の可能性とそれを回避するための対策をユニットごとに話し合っている。	職員は、適切なケアについて研修で学び、身体拘束ゼロに取り組んでいる。また、「身体拘束「0」にしよう検討会議」を3ヶ月毎に開催し、具体例を挙げ、不適切ケアを防止する為の話し合いと確認を行っている。全職員に議事録を回覧して共有し、スピーチロックについても、正しく認識し、優しく寄り添う支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主体で年2回の勉強会を設けている。また全職員に対し、虐待について自身と他職員についての聞き取りを行い、虐待につながる前に解決できるよう取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、法人代表と管理者が立ち合い、十分説明を行っている。また、ご利用者やご家族の心配事や疑問点についてはその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居後1か月後、年1回のアンケート、また来設時や電話などで意見や要望を職員と共有し改善策など話し合っている。	毎月「彩り通信」を送付している。「サービス提供状況報告書」として、利用者の食事や歩行、排泄支援状況等を詳しく記入して家族に送り、家族との連携に努めている。家族からは訪問時に話を聞いたり、電話で意見や要望を聞くほか、アンケートの結果も検討してサービスに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議、週1回のカンファレンスで意見や提案をいつでも聞く機会を設け反映させている。	管理者も介護業務を担当し、職員の気づきや提案をすぐに聞くことができる体制である。週1回のカンファレンスでは職員から活発に意見が出るなど、風通しの良い職場である。育休を含め福利厚生が充実しており、職員の定着率が高い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回昇給がある。各担当委員を受け持ち法人代表が評価を行い、各自のモチベーションにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアシートを基に研修先など相談し、社外研修に出席しやすいよう勤務等柔軟に対応している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修では各事業所からの参加で社内間では交流が図れるようになっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成者が面談をさせて頂き、困っていることや不安なこと、要望をお聞きし、安心できるよう寄り添い、よい関係になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成者でご家族よりじっくり話を聞かせて頂き、良い関係が作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、ご家族と面談を行い、まず必要な支援は何かと管理者と計画作成者を中心に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を任せたり一緒に家事を行ってお礼を伝え、役割を持って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係を見極めつつ、絆を大切にさせて頂けるよう橋渡しに配慮している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に協力して頂きながら外出や訪問につなげている。新型コロナウイルス感染予防のため、面と向かってのゆったりした時間は過ごせていないが、手紙や電話、散歩途中に窓越しで顔を見せ合ったりと皆さんに協力頂いている。	家族・親戚・友人の訪問が多く、利用者と訪問者が安心して過ごすことができるよう配慮している。現在は新型コロナ感染予防の為に様々な制限があるが、職員は利用者の安全を第一に、馴染みの人や場との関係を継続できるよう工夫し、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し孤立してしまう方が出ないように橋渡しをしたりして関わり合いの支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向を把握するため、日々の会話や表情から思いをくみ取り、他の職員とも確認しながらケアにつなげている。把握が困難な方には本人の視点にたって検討している。	入居前のアセスメントで利用者の意向を把握している。意思表示が困難な場合は家族の協力も得ている。日々の生活の中で把握した本人の思いや希望は個人記録に記入し、職員で共有している。また、利用者の声を行事に組み入れたり、書道等の趣味を支援するなど工夫し、本人本位のケアにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の聞き取った内容、日々の会話などからの情報を職員で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日介護記録に残し、各人の暮らしぶりが把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月3、4回のカンファレンスを行い現状に合った支援ができるよう介護計画の作成・見直しをしている。	介護計画は、事前に本人と家族の希望を聞き、日々の申し送り・介護記録・医療関係者の意見などを集約し、全体で検討しながら作成している。利用者の状態変化等には柔軟に対応し、見直しをしている。	サービス担当者会議は、できる限り家族も参加できるよう日程を調整して開催し、家族が関係者と共に介護計画について話し合う事で、さらなる信頼関係の向上に繋がりたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	様子や気づきを記録に記入して職員間でしっかり情報共有し、実践や介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	変化する状況やニーズに合わせてご家族の協力を得ながら、出来る限り柔軟な支援が行えるように努めている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や広報、新聞などから情報を見つけ、ご利用者と一緒に取り組んで参加させて頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的な医療が受けられるように、かかりつけ医と良い関係を築けるよう努力している。往診では日常の様子を伝え、ご本人、ご家族の希望を聞きながら適切な医療が受けられるよう支援している。	契約時に、かかりつけ医について事業所の方針を説明し、ほとんどの利用者が協力医を選択している。協力医の往診は2週間に1回、訪問看護と訪問歯科の診療も週に1回ある。24時間の医療連携体制があり、利用者が適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に様子を伝えている。またいつでも電話相談ができ、適切な医療や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医に情報提供をお願いし、入院先との連携に努めている。入院先にはこまめに訪問し、ご本人の状態を把握し、また病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明し方針を立ててもらっている。必要になってくる都度に話し合い、医師や看護師からも説明を受けて頂き、方針を確認している。	入居時に、重度化や終末期の対応について事業所の方針を説明し、了解を得ている。重度化した場合は利用者、家族、関係者が十分に話し合い、適切な対応を行っている。職員は、看取りに関する研修を重ねており、希望があれば、家族の協力を得ながら、看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	座学は行っている。実践力を身に付ける機会を設けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、水害、避難、地震、通報訓練を実施、反省や気づきを次の訓練に活かせるよう避難策を検討し、慌てず避難誘導ができるよう取り組んでいる。	年2回、防災訓練を実施している。火災、水害、地震を想定し、運営推進会議委員や行政の立ち会いの下で助言を得ながら実施している。備蓄の点検も定期的に行い、補充している。	防災マニュアルを整備し、災害時においての人的配置や役割分担等を具体化した資料を職員に周知することや、地域連携をさらに深め、近隣の理解や協力が得られる体制づくりにも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を失わせないケアを行うよう職員同士でも常に声をかけあい意識している。特に排泄着替え入浴時には気を付けている。	利用者一人ひとりの尊重とプライバシーの確保については、重点課題として法人全体で取り組んでいる。職員は、不適切なケアについて学習会で学び、会話や言葉かけ、呼び方についても配慮し、利用者の自尊心を傷つけない対応を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常のご本人に合わせた方法で思いや希望が表しやすい雰囲気を作ったり、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に無理強いすることがないよう配慮している。1日の過ごし方を体調に合わせて一人ひとりのペースで暮らして頂いている。個々に合わせた起床時間や入浴も利用者様の気分に合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりに応じて、その人らしい生活しやすい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりのできる力を活かしながら職員と一緒に食事の準備片付けなど行っている。	食事は、職員の手作りであり、利用者の状態に合わせた形態で提供し、盛り付けを工夫しながら完食を目指している。利用者は、配膳・片付け・野菜の皮むきなど、できることを手伝っており、おやつ作りを一緒に行うこともある。行事食も充実し、誕生日には利用者の好物を用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が一日を通して必要な分が摂れるように好みのものや形態、タイミングをみたりなど工夫して一人ひとりに応じた支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりに応じて見守りや介助を行い、無理強いにならないように口腔ケアができるよう支援している		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握してトイレ誘導、声掛けや見守りをしている。ご自身で行かれる方は汚染がないかさりげなく配慮している。	利用者の排泄パターンを把握し、声かけやトイレ誘導で排泄の自立を維持できるよう支援している。また、業者の協力を得て、適切な排泄用品についての職員研修も行っている。夜間も声かけを行い、利用者の状態に合ったパッドを選択しながら、支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳酸菌飲料や果物などをお出ししたり食事の工夫を行っている。便秘に良い食事作り、体操、オリゴ糖、乳酸菌飲料など予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりのタイミングで入浴できるような支援に努めている。希望される方は毎日でもという気持ちで職員都合にならないようにしている。本人が望まない時は変更したりする。入浴は利用者様の意思を確認しご本人の判断で入ってもらっている。	入浴は週2回を基本にしているが、毎日準備をし、利用者の希望に柔軟に応じている。利用者は個浴でゆったりと入浴を楽しんでいる。重度の利用者はリフト浴で安心・安全に入浴ができ、職員の腰痛予防にもつながっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休息されている。就寝起床時間も特に決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出ている薬の説明書に目を通し理解に努めている。服薬支援は確実に出来るように他スタッフとも確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	楽しみごとやし好品などを把握してレクに取り入れている。新型コロナウイルスの関係で室内が多いが、壁紙作品が毎月の楽しみになっている。天気の良い日に利用者様に水やり等を一緒に行ったり雑誌購読をして気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を取り入れつつ外出計画を立てて出かけられるようにしているが、新型コロナウイルス感染予防のため外出を控えている。天気の良い日には散歩に出かけている。	利用者の健康状態や天候等を考慮し、散歩や外気浴、季節毎には花見等の行事を行うなど、家族の協力を得て外出を楽しんでいる。現在は新型コロナウイルス感染予防の為、外出を控え、庭の手入れをしたり、ベランダでお茶を楽しむ等、季節を感じられるように工夫している。	

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金をお預かりしており利用者様の外出時に希望があればすぐに使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら携帯電話を所持し家族や友人と連絡をとっておられる。年賀状や電話でのやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるものを取り入れ居心地よく過ごして頂けるように、共用の空間には季節の花や利用者様と一緒に作ったポスターを張り季節感を取り入れている。	共用部分は広く、車椅子の利用者も安心して移動できる。居間は窓が多く明るい。空調設備を整え、空気清浄機も設置されている。壁には地元文化祭に出品した利用者の作品や、趣味の俳句、書道作品、季節を感じさせる作品が多数飾られ、利用者や訪問者が楽しめるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ミニテーブルや衝立を出したりして一人の空間を作ったり、2、3人で過ごせるテーブルの配置になっている。気の合った利用者様同士で過ごせるよう自由な雰囲気を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者の使い慣れたものを家から持ってきたり、写真を飾るなど好みに合わせた居心地良く過ごせるようにしている。	窓が大きく明るい居室である。ベッドが備え付けられ、利用者は、使い慣れた整理ダンスやさまざまな小物を持ち込み、家族の写真を飾るなど、本人好みの居心地よく過ごせる部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内の廊下やトイレには手すりが設置され安全に移動できるようになっている。また不安や混乱を招くような物品を置かないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2190103743		
法人名	株式会社かみのくら		
事業所名	グループホーム彩り「ぎふ」(2F)		
所在地	岐阜市旦島6丁目1番16号		
自己評価作成日	令和2年8月6日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和2年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの理念「自由に笑って過ごしましょう」を実現できるよう意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	文化祭など地域のイベントに参加している。530運動など中止になり今年度は参加できていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や外掃除、水やりなど日常を通して認知症の方の姿を理解してもらえよう心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染予防のため、開催はせず予め報告書を渡し意見を頂いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険について相談を行った。地域包括主催の認知症ケアについての意見交換会に出席させて頂いた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会などで学んだ事などをしっかり守りケアに取り組んでいる。3か月に1回「身体拘束「0」にしよう検討会議」を開催し、個々についての対策を話し合っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人主体で年2回の勉強会を行っている。また全職員に対し、虐待について自身と他職員についての聞き取りを行い、虐待につながる前に解決できるよう取り組んでいる。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については法人代表と管理者が立ち会い十分説明を行っている。またご利用者やご家族の心配事や疑問点についてはその都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居後1か月、年1回のアンケートに回答頂き、改善にむけている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の施設会議、週1回のカンファレンス、またはその都度管理者などに伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給がある。各担当委員を受け持ち、法人代表が評価を行い、各自のモチベーションにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加できるよう勤務の協力や研修の情報、助成金の活用など提案している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修では各事業所からの参加で社内間交流が図れている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成者が面談をさせて頂き、困っていることや不安なこと、要望をお聞きし、安心できるよう寄り添い、よい関係になれるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者と計画作成者でご家族よりじっくり話を聞かせて頂き、良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人、ご家族と面談を行い、まず必要な支援は何かと管理者と計画作成者を中心に相談している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの方と関わりをもちしっかり利用者様を理解するよう努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナでなかなか面会ができないので電話の時などに家族の方に今の状況をお伝えしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会などできませんが、ベランダから顔を見てもらっている。会話の中に馴染みの話を取り入れるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の方が孤立しないように間に入り橋渡しをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いに寄り添い、その人らしくいられるよう、その都度利用者様にお伺いし把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や暮らし方、生活環境など、毎日の介護記録でしっかり把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の方のできる事を発見したら記録に残し他のスタッフとも情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングシートに記入、情報の共有に努めている。また週1回のカンファレンスを行い現状の把握に努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に残し、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	1週間に1回カンファレンスで話し合い、柔軟な支援を心がけている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板や広報、新聞などから情報を見つけ、ご利用者と一緒に参加させていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的な医療が受けられるように、かかりつけ医と良い関係が築けるよう努力している。往診では日常の様子を伝え、ご本人、ご家族の希望を聞きながら適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護に様子を伝えている。またいつでも電話相談ができ、適切な医療や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医に情報提供をお願いし、入院先との連携に努めている。入院先にはこまめに訪問し、ご本人の状態を把握し、また病院関係者と情報交換している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前に説明し方針を立ててもらっている。必要になってくる都度に話し合い、医師や看護師からも説明を聞きながら方針を確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	座学は行っている。実践力を身につける機会を設けたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い実践的な取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーや誇り確保について具体的に確認しあい、一人一人の尊厳を保持してケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示ができない方でも表情や全身での反応を注意深くキャッチし、その都度他スタッフとも相談しつつ共有している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースになるべく合わせられるよう本人様のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できるだけ本人の個性、希望、生活歴に応じておしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と協力しながら行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに気を付けて食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔保持に努め、毎回口腔ケアを行っている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しトイレ誘導、声掛けや見守りをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	できるだけ水分を摂って頂いたり食物繊維の多い食品、乳酸菌飲料など提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望やタイミングを出来る限り尊重している。入浴前に必ず声掛けし入浴されるか決めてもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりのペースに合わせて休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局から出ている説明書に目を通し理解に努めている。服薬支援は確実に出来るようスタッフ間で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	作品を作ったり家事などできる方は行って頂き感謝の言葉を伝えている。食器棚にカフェカーテンを作って頂いた時はご本人も他利用者様もとても喜んでいました。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望を取り入れつつ外出計画を立てている。2月より新型コロナウイルス感染予防のため、特別な外出はできていないが、花を見たり、日に当たったりとできる事を行っている。		

岐阜県 グループホーム彩り「ぎふ」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお小遣いをお預かりし、希望があればすぐに使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が携帯電話を所持しており、自由に家族と連絡をとっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごせるよう、気温や季節感に気を付けている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者様同士で過ごせるよう、距離を取りながら過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人のなじみの物を置き、居心地よく過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分でできるように目印等でわかるよう工夫している。		